基本施策
7 笑顔をつなげるスポーツ活動の推進

個別施策21　多様なスポーツ活動の促進

めざす姿	誰もが、「する・みる・ささえる」など多様な形で、スポーツに親しんでいます。

■現状と課題

○　スポーツは、「する」ことによる楽しさや喜び、「みる」ことによる感動、生きる活力、「ささえる」ことよる共感、社会の絆につながり、楽しく健康でいきいきとした人生を送ることに貢献するものです。

○　少子化により学校単位でスポーツ少年団や部活動のチームを構成することが難しく、複数校からなる混合チームやクラブチームなどが増加傾向にあります。また、児童生徒のスポーツクラブ等の所属割合が全国平均よりも低い状況です。

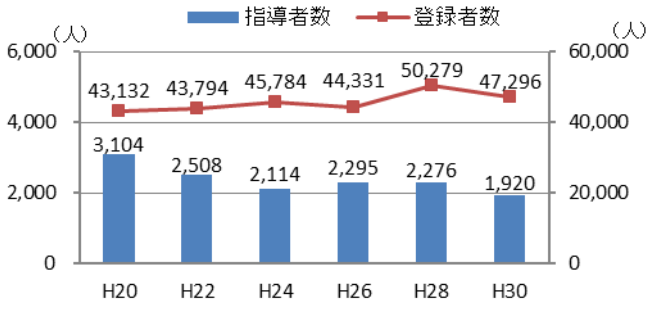
「運動部（部活動）やスポーツクラブに入っている（所属している）」と回答した児童生徒の割合

（%）

	小5男子	小5女子	中2男子	中2女子
帯広市	69.6	45.7	88.4	61.2
全国	78.0	51.4	95.5	69.1
差	−8.4	−5.7	−7.1	−7.9

出典：平成30年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査（スポーツ庁）

○　競技スポーツに親しめる環境には、チームの指導や競技会の運営など「ささえる」ための多くの人材が必要です。しかし、競技役員や競技審判などの人材の高齢化が進み、人材の確保が求められています。また、競技団体数が減少していることもあり、指導者人材が平成 20（2008）年度と比較し大きく減少しています。



出典：帯広市教育委員会

○　十勝・帯広の特色の一つとして冬季スポーツが親しまれていますが、他の競技と同様スケート競技においても競技者数が減少しています。

○　将来にわたり、身近な地域でスポーツを楽しめる環境を維持するためには、子どもたちが競技スポーツに興味、関心を持つ必要があります。また、スポーツの普及・振興に指導者は重要な要素であり、人材の確保に加え、指導技術の向上やハラスメントの防止にも取り組む必要があります。

○　学校におけるスピードスケートの授業や、日本トップレベルの選手などが練習に訪れる帯広の森屋内スピードスケート場などの良好な競技環境を活用しながら、すそ野拡大の取り組みを今後も進めていく必要があります。

■取り組みの方向性

○　スピードスケートをはじめとした地域における各種競技スポーツを普及し、競技者の人口の拡大や競技力の向上に取り組むほか、競技スポーツを支える活動の支援に取り組みます。

■主な取り組み

１　スポーツの振興

（1）　予選大会等を経て、全道大会や全国大会に出場する選手などを支援します。

（2）　スポーツ大会等において優秀な成績を修めた選手や本市のスポーツの普及・振興に特に貢献のあった人を表彰します。

（3）　プロスポーツやスケート国際大会などのトップレベルのスポーツを観戦する機会を提供します。

２　スポーツ団体の支援・指導者人材の育成

（1）　スポーツ環境を支える人材の確保や指導技術の向上を図るスポーツ競技団体の連合体の活動を支援します。

（2）　身近な地域でスポーツを楽しむ環境を維持していくために必要な指導者の確保、育成活動を支援します。

３　スケート競技の振興

（1）　スピードスケート競技のすそ野拡大のために未就学児や児童、生徒、保護者を対象とした講習会などを開催します。

（2）　スピードスケート競技の選手を対象とした教室を開催します。

個別施策22　スポーツによる活力のあるまちづくり

めざす姿	誰もが生涯にわたってスポーツに親しみ、スポーツで集い、まちの賑わいづくりにつながっています。

■現状と課題

○　スポーツは、年齢、性別、障害の有無等に関わらず誰もが参画できるものであり、人々の意識や行動を変化させ、前向きで活力に満ちた社会の実現に貢献できます。

○　これまで本市では、昭和 63（1988）年に健康スポーツ都市宣言※を行い、小学校区にスポーツ推進委員を配置し、小学校を中心とした地域のスポーツ活動の促進を図ってきたほか、市民の健康・体力づくりや生きがいづくりを目的として、スポーツ大会やスポーツ教室・講習会等を開催し、生涯スポーツの振興を図ってきました。一方で、地域の生涯スポーツの振興を担うスポーツ推進委員の高齢化が進んでいるほか、人材の確保に苦労を擁する状況となってきています。

○　これまでも各種スポーツ教室や体験会などを開催してきましたが、障害のある人など、広く誰もがスポーツ活動に親しむことができる取り組みを進める必要があります。

○　地域のスポーツ振興や競技力の向上に加え、人をまちに呼び込み、地域のにぎわいを生み出すことを目的の一つとして、ワールドカップスピードスケート競技会や日本クラブユースサッカー選手権大会（U-15）などの国際大会、全国大会などの様々なスポーツ大会の誘致・開催を行ってきたほか、プロ野球やバスケットボールなど日本のトップレベルの試合が開催されてきました。

　また、フードバレーとかちマラソン大会を開催し、域外より多くの人が帯広を訪れています。

○　今後も多くの人をまちに呼び込み、人が集い、地域のにぎわいにつなげていくために魅力ある催しを開催することが必要です。

■取り組みの方向性

○　誰もが、身近にスポーツに親しめる機会やトップレベル選手と触れ合う機会を提供するほか、地域で活動する人材や団体を育成し、スポーツを通じたまちの賑わいづくりに取り組みます。

※ 健康スポーツ都市宣言　地域に根ざしたスポーツ活動を通じ、明るくたくましい心とからだを育み、躍動する豊かなまちをめざして、昭和 63(1988)年 10 月に市が行った宣言。

■主な取り組み

１　地域スポーツの振興

（1） 地域のスポーツ振興の中心的役割を担うスポーツ推進委員の人材確保、育成を図るとともに、市民がスポーツに親しむきっかけづくりのため、スポーツ推進委員を中心に地域でのスポーツ教室を開催します。

（2） 誰もがスポーツに親しめるよう地域住民が自ら運営する「総合型地域スポーツクラブ※」の活動を支援するほか、障害のある人がスポーツに親しむきっかけづくりのため、レクリエーションスポーツ※やニュースポーツ※などの体験会を開催します。

（3） 学校体育館の開放などにより、市民が身近な場所で気軽にスポーツに親しみ、交流が深められるよう取り組みます。

２　スポーツ大会合宿等誘致

（1） 競技団体と連携し、スケート国際大会や全国大会を誘致、開催します。

（2） プロ野球公式戦をはじめとした様々なプロスポーツの誘致に取り組みます。

（3） マラソン大会をはじめ、市民がスポーツに親しむきっかけとなり、多くの人が参加して様々な形で関わり賑わいを生みだす取り組みを進めます。

平成 30（2018）年 ISU（国際スケート連盟）
ワールドカップスピードスケート競技会・帯広大会

※ 総合型地域スポーツクラブ　子どもから高齢者まで、それぞれの志向・レベルに合わせて参加できる、地域住民により自主的・主体的に運営されるスポーツクラブ。

※ レクリエーションスポーツ　勝敗にこだわらず、いつでも、どこでも、誰でもできる軽スポーツのこと。

※ ニュースポーツ　パークゴルフやゴルゲートなど 20 世紀後半以降に新しく考案されたスポーツのこと。

個別施策23　スポーツ施設の整備・管理運営

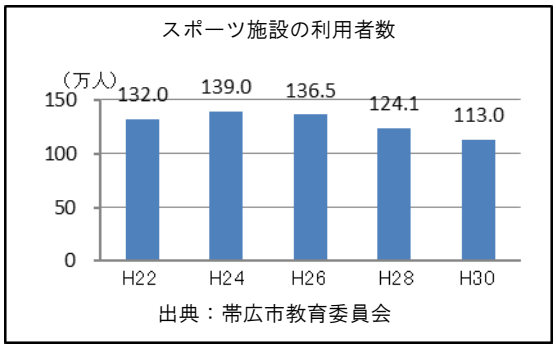
めざす姿	スポーツ大会の開催をはじめ健康増進や仲間づくりなど、多くの人がスポーツ施設を活用しています。

■現状と課題

○　各スポーツ施設は、日常的な各種競技の練習会場や市民の体力づくりの活動場所として使用されているほか、全道大会や全国大会の会場として使用されています。一方で、多くの施設が、供用開始から 20 年以上を経ており、設備や備品の経年劣化が進んでいます。

○　多様化する住民ニーズに効果的・効率的に対応するため、指定管理者制度※を導入しているほか、地域住民や団体の協力を得ながらスポーツ施設を管理運営しています。

○　多くの施設において、利用者の安全性と適切な維持管理のために、施設や設備の計画的な修繕、更新が必要です。また、競技者人口や年齢構成などの利用者の変化を踏まえ、限られた財源のなかで、必要とされる施設規模、施設機能、利用者サービスを維持していく必要があります。



■取り組みの方向性

○　老朽化の進んだ施設の計画的な改修に努めるとともに、指定管理者との連携により施設の効率的な運営に努めます。

※ 指定管理者制度 P55 を参照。

■主な取り組み

１　計画的な施設整備の実施

（1） 利用者の安全性を確保するとともに、競技者人口等のスポーツ施設を取り巻く環境を考慮しながら、計画的に施設の改修を進めます。

２　適切な管理運営の推進

（1） 地域住民や事業者、団体の協力を得ながらスポーツ施設の適切な管理運営に取り組みます。

よつ葉アリーナ十勝（令和２年２月 29 日供用開始）